

## 放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和4年 1月 19日

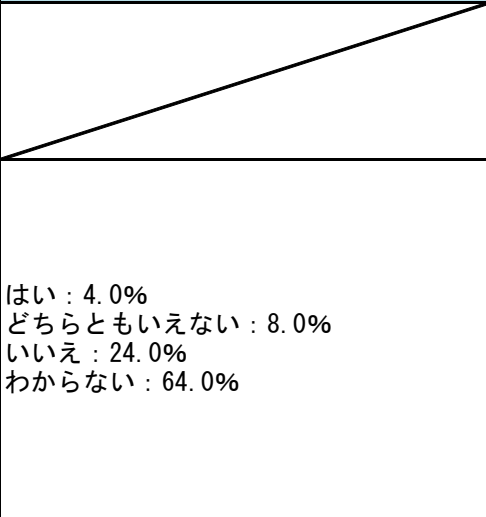
事業所名：すまいる・きっず

サービス種類：放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	3つの部屋を、それぞれプログラム、課題、余暇等に分かれて使えるよう配置している。2021年1月にサンルームを増設し、子どもたちの活動スペースを拡充した。	はい：60.0% どちらともいえない：12.0% いいえ：0% わからない：28.0%	より子どもたちが使いやすくなるよう、レイアウトの変更を行う。 環境・体制・整備に関して前回より「わからない」が多くなっている。ブログや広報誌で更にアピールしていくことが必要。
	2 職員の適切な配置	職員の配置は法定で定められた職員数以上を確保している。有資格者を中心にプログラムや学習、支援を実施している。	はい：60.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：32.0%	今後も、法定で決められた職員の配置を継続していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ホワイトボードなどの視覚支援を用いて、児童に分かりやすく一日のスケジュールを伝えたり、どこになにがあるのか視覚支援を用いて分かるようにしている。入り口から玄関までの階段、玄関内の段差があるためバリアフリーとは言い難い。	はい：60.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：32.0%	駐車場から玄関までのバリアフリー化に課題を抱えているが、現状での改善は困難。視覚支援等、子どもたちの特性に応じて構造化を図る。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日清掃、消毒を行い、清潔を保っている。子どもたちが過ごしやすいよう環境整備を行っている。コロナ禍に伴い、アルコールによる消毒箇所を増やしている。	はい：72.0% どちらともいえない：4.0% いいえ：0% わからない：24.0%	日々、朝礼、終礼等で話し合いを行い配置換えや改善を行っている。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎日の朝礼、終礼を通して現場での動きや対応などの改善点を話し合い、職員各自が主体者となって目標設定と振り返りを行っている。	/	今後も継続して、日々、職員間の情報共有を行う。会議記録や連絡事項を用いて、職員への情報共有に漏れないよう対応してる。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	利用者の個人情報保護の側面から外部の評価は取りづらい。別事業所と月に一回会議を行い、情報交換や意見交換を行い、業務改善を進めている。	/	会議で得た情報や意見を活用して業務改善に勤める。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	2カ月に1回程度、事業所内研修を行っている。外部の研修会にもコロナ禍の為、オンラインを活用し、定期的に参加している。	/	コロナ禍の為、オンラインを活用して、職員の研修会への参加を推進する。
適切な	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	日々の振り返りや、放課後等デイサービス計画更新時の聞き取りの際に保護者との情報共有を行っている。日々のモニタリングを参考にアセスメントを行い、その子のニーズに応じた支援計画を作成している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	日頃の保護者との関わりをより深め、アセスメントの質を高めることで、子どもたちのニーズに応じた支援計画を作成していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
支援の提供	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	放課後等デイサービス計画作成のための担当者会議を毎月開き、職員間での情報共有を行い、子ども達に応じた支援内容を計画している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	保護者の評価を100%でい頂いているので、今後も保護者と綿密な連携を取り子どもの発達状況に応じた計画の作成を行っていく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	担当者会議の中で検査結果を読み取り、必要な支援や具体的な支援内容を話し合い、放課後等デイサービス計画に記載している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	職員会議や担当者会議を充実させることで、より具体的な支援内容を作成していく。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	職員全員で放課後等デイサービス計画を共有し、子どもに応じた日々の療育や学習を放課後等デイサービス計画に基づいて支援を実施している。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	保護者から100%を頂いているので、今後も全職員が放課後等デイサービス計画を日々の活動の中で共有し、適切な支援につなげる。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	例年通り曜日別のプログラムやイベントは担当と副担当を決めて、プログラムやイベントの内容を計画し、職員全体で会議を行い内容を立案している。		コロナ禍の状況に応じて、子どもたちが密にならないようプログラムを複数回に分けたり、イベントの飲食は中止するなど、感染対策に取り組んでいる。今後も、保護者や子どもたちが楽しめるプログラムやイベントを立案、実行していく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は曜日ごとに決められてプログラムを実施した。休日は外遊びは行ったが、イベントや遠足はコロナ禍の為、大半が中止となった。避難訓練は、防災動画や紙芝居を用いて意識向上を図った。		コロナ禍の状況を見極め、子どもたちに応じたプログラムや学習、イベントや遠足、避難訓練を実施していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	例年通り、活動プログラムが固定化しないように、曜日別のプログラムを行っている。また、毎回のプログラム内容が固定化しないよう終礼で振り返りを行っている。	はい：80.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：12.0%	日々の職員会議の中で、プログラムの内容や取り組み方について話し合い、プログラム内容の固定化を防ぐ。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	日々の朝礼で当日の流れについて話し合いを行い、非常勤の職員には送迎表、日案、人員配置表を使って支援内容や役割分担を説明している。		今後も、現在の取り組みを継続し、職員間での支援内容や役割分担を確認することで支援の円滑化を図る。
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、毎日職員会議を行い、その日の支援の振り返りやヒヤリハット、現場の改善点などを職員で話し合っている。		その日職員会に参加できなかった職員には、連絡事項や会議記録を使って情報共有を行う。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個々の活動に関する記録を毎日記入している。学習やプログラムに関しては、学習内容やプログラムへの参加の様子を記録し、職員間で共有したり、送迎時に保護者に伝達している。		今後も活動記録や学習記録を継続し、それを用いて、保護者に分かりやすく子どもたちのその日の活動を伝えていく。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	担当者会議で職員間や保護者とのモニタリングを定期的に行っている。保護者にも前回の放課後等デイサービス計画を確認してもらい、支援目標の達成、未達成の情報共有を図り、担当者会議で次回の放課後等デイサービス計画に向けた話し合いを行っている。		今後も職員間や保護者と定期的なモニタリングの実施し、放課後等デイサービス計画の見直しを行っていく。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達管理責任者が各市町の相談事業支援事業所とモニタリング会議を毎月行っている。必要に応じて、学校などと情報共有を行っている。		毎月、相談支援事業所とモニタリング会議を行っているので、必要に応じて担当者会議の開催を関係機関に呼びかけ、実施していく。
	2 <b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療的なケアが必要なケースはこれまでに無かった。		医療的ケアが必要なケースに備え、関係機関との連携を進める。
	3 <b>(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)</b> 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的なケアが必要なケースはこれまでに無かった。医師からの申し渡しを保護者から伝えられた時は、その都度対応している。		医療的ケアが必要なケースが出た時には、主治医や医療関係機関と連携していく。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	児童発達支援から放課後等デイサービスに切り替わる時、相談所や児童発達支援事業所と情報共有を行っている。		保護者から幼稚園や保育園での様子や現状を聞き、移行が円滑に行えるよう支援する。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在のところ、学校を卒業し障害福祉サービス事業所に移行した方は2名となっている。相談所を通じて作業所との情報共有を行った。		今後も卒業される方がいた時には、作業所や相談所の方と情報共有を行っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関での研修は代表者や担当者が参加し伝達している。		日曜日などは全員で参加できている。今後も継続して参加することで職員の質の向上を目指す。	
	7 児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	今年度はコロナ禍もあり、放課後児童クラブや児童館、障害のないあ子どもと活動する機会を持つことが出来なかった。		はい：4.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：24.0% わからない：64.0%	コロナ禍の状況を考慮し、安全を確保した上で地域内で機会があれば積極的に参加していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	例年は、地域の祭りに事業所として出店し、地域住民と交流しているが、今年はコロナ禍があり、実施することができなかった。			コロナ禍が収束すれば、例年通り、地域の行事への参加を行い、地域に開かれた事業運営を目指す。
保護者へ	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	保護者とは契約時に説明を行っている。利用者負担に変更がその都度連絡を行っている。	はい：92.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：0%	今後も保護者の立場に立った丁寧な説明を行っていく。	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	例年通り、保護者とお会いして個別支援計画の内容について説明を行い、署名捺印をもらっている。	はい：96.0% どちらともいえない：4.0% いいえ：0% わからない：0%	保護者様に分かりやすく、丁寧な説明を今後も継続して行っていく。	
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者からご相談いただいた時には職員間で話し合い、保護者にフィードバックしている。	はい：40.0% どちらともいえない：32.0% いいえ：4.0% わからない：24.0%	保護者の方の回答結果を受け止め、オンライン講座等を含め、保護者向けに発達障害の理解を促す講座を定期的に行い、家族支援に努める。	
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	保護者と送迎の際に日ごろの様子や学習の様子を毎回伝えている。家庭での様子も連絡帳や送迎時に情報共有を行っている。	はい：100% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：0%	「はい」との回答を100%頂いている。今後もより一層保護者や子どもの気持ちに寄り添って共通理解していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
の 説明責任・ 連携支援	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	個別支援計画作成前に面談の機会を設けている。LINEや電話等で相談を受けることもあるので、その都度、必要な助言や適切な対応を行っている。	はい：72.0% どちらともいえない：16.0% いいえ：0% わからない：12.0%	今後も希望することで面談の場を設けられることを周知徹底していく。また、こちらからも積極的に面談の機会を持つよう働きかける。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	年二回の保護者会(勉強会)を開催したり、夏休みにはキャンプを通して保護者交流の場を設けたり、ランチ会(父母会)も行っていたが、コロナ禍の為実施できなかった。	はい：32.0% どちらともいえない：20.0% いいえ：16.0% わからない：32.0%	コロナ禍の状況を見定めて、今後も定期的の開催していき、参加される方が増えるよう取り組む。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情体制は電話やメール等で対応体制ができています。契約書にもそのことを掲載している。苦情があった時は、即座に連絡をとり対応している。	はい：64.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：28.0%	今後も継続して保護者からの苦情やご意見には真摯に対応していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時に当日の様子や出来事を報告している。	はい：84.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：8.0%	ほとんどの保護者が「はい」と答えてくれている。今後も送迎時に当日の様子を細かに伝えていく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、事業所内の様子をお便りとして配布している。また、ホームページで毎週、事業所内の出来事を記事にして発信している。連絡に関しては、電話やライン、メールを用いて、保護者から気軽に連絡を取れる環境を作っている。	はい：96.0% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：4.0%	今後も継続して、ブログや広報誌等を用いて事業所内のことを保護者に分かりやすく発信していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に関する書類は第三者に見られないよう厳重に保管している。また、個人情報を使用する場合は、保護者に必ず確認を取った後、使用するようになっている。	はい：88.0% どちらともいえない：0% いいえ：0% わからない：12.0%	今後も、個人情報の使用には細心の注意を払っていく。
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは全て策定しており、長期休暇時に避難訓練を実施し、保護者や児童に対しお便り等で連絡している。職員間では、定期的にマニュアルの確認を行っている。	はい：80.0% どちらともいえない：4.0% いいえ：4.0% わからない：12.0%	以前に比べ「わからない」が減っている。今後も周知を徹底するため、保護者向けのマニュアルを配布していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	3カ月に1度程度防災期間を設け、避難訓練を実施していたが、本年はコロナ禍の為、密を避けるため訓練ではなく、防災動画等を用いて意識向上に取り組んだ。	はい：60.0% どちらともいえない：8.0% いいえ：0% わからない：32.0%	「わからない」と回答された保護者が3割もいるので、防災訓練を実施した際には、ブログや広報誌、送迎時の伝達で積極的に伝達する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止委員を設置し、虐待や虐待の疑いの報告を毎月行っている。また、虐待防止に関する研修にも参加している。		虐待防止委員会を中心に、継続して報告会、堅守等を行っていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	当事業所は身体拘束を行ったことがない。		今後、必要であれば、その都度事業所内職員や子ども、保護者に十分説明し了承を受けた上で記載する。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からアレルギーの確認を契約時に行っている。その情報を元に適切な対応を行っている。		今後も保護者と連携を行い、アレルギーに関する情報の共有を行っていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	例年通り、ヒヤリハット事例集及び事故報告書を作成し、職員間で情報の共有を行っている。		今後も継続して作成し、職員間で周知徹底していく。